

2014年アジアジュニア選手権レポート (6)



金メダルを獲得したJW2xの瀧本選手（左：館林女子高校）と小原選手（右：筑波大学）

9月7日

アジアジュニア最終日です。本日はJM1xとJW2xのFinal Aがあります。



左上：アップをするJW2x（小原選手（筑波大学）、瀧本選手（館林女子高校））
左下：蹴り出す前に鎌野コーチとがっちりと握手するJM1x高田選手（敦賀工業高校）
右：エルゴメータでアップをするJW2xの小原選手（筑波大学）と瀧本選手（館林女子高校）

#30 10:20 (日本時間11:20) JM1x Final A

1. PAK, 2. INA, 3. JPN, 4. HKG, 5. UZB, 6. TPE

JM1xの高田選手 (敦賀工業高校) です。



Final Aへ向け蹴り出すJM1x高田選手 (敦賀工業高校)

逆風が吹きややラフ、5・6レーンがやや有利なコンディションでスタート位置につきます。高田選手（敦賀工業高校）は3レーン、香港、ウズベキスタンとの激しいレースが予想されます。スタートは横一線、500mでは香港、日本が1艇身リード。ここからは日本がリズムを落とさずトップを快漕し1000m通過。ウズベキスタン、香港が1艇身で追う展開。



1500m地点、トップを走るJM1x高田選手（敦賀工業高校）

なんとか突き放したい日本だったが第3クォーターで3艇が並びながらラストクォーターに突入。日本はまだ半艇身リード。

しかし、ここから香港、ウズベキスタンの激しいスパートを高田選手を襲う。逃げる日本。迫る香港とウズベキスタン。1600mで並ばれ必死でペースを上げるが、香港、ウズベキスタンの激しいスパートについていけず3位でゴール。

しかし、全てを出し切ったレース！！

タフなレース、よく頑張りました。



表彰式でのJM1x高田選手（敦賀工業高校）

#31 10:35 (日本時間11:35) JW2x Final A

1. HKG, 2. KOR, 3. JPN, 4. TPE, 5. KAZ, 6. IRI



笑顔で蹴りだすJW2xの小原選手（筑波大学）と瀧本選手（館林女子高校）

予選で危なげないレースでトップタイムで通過した二人。昨日のトレーニングでも課題をしっかりと確認、出艇前には古田コーチよりの確なアドバイスがありスタート地点につきます。スタートから自分たちの漕ぎに徹し500mで韓国、台湾に既に1艇身リード。



大きくリードするJW2xの小原選手（筑波大学）と瀧本選手（館林女子高校）

加速の長さを変えずに台湾に2艇身リードで第3クォーターへ。他クルーが逆風に苦しむ中日本のリズムは変わらない。ラストクォーターこそ少し疲れが見えたものの、2位に大差をつけラストパートを駆け1位でフィニッシュ！！

男女ダブルスカル アベック優勝が決まった瞬間となった。

小原選手は大学生でありインカレが終わり事前合宿からの準備であったが、うまく小原選手が瀧本選手を牽引しコンビネーションを高めていきました。二人とも長身の軽量級選手だけに今後の活躍にも期待したい。

そういった意味でも貴重な経験となる本大会を圧巻の金メダルで締めくくり価値ある大会となりました。

応援本当にありがとうございました！！



上：表彰を受けるJW2xの小原選手（筑波大学）と瀧本選手（館林女子高校）
下：表彰台でのJW2xの小原選手（筑波大学）と瀧本選手（館林女子高校）



ご声援ありがとうございました！！

藤井団長の言葉

日本の皆様、多大なご声援ありがとうございました。力の限りを尽くした結果です。選手たちは次のステージに向け頑張ってくれることと思います。

本当にありがとうございました。